

ケアを支援する機能

機能 1

患者の状態把握と変化を通知

呼吸数、心拍数、睡眠、覚醒、離床などの情報をリアルタイムにセンシングし端末に表示します。*

ベッドに内蔵されたセンサーとマットレスの下に設置する体動センサーで常時測定します。



身体や衣服に装着しないセンサーで患者に負担をかけずに状態を把握

- ①起居動作を把握し、離床につながる行動(起き上がり、端座位、離床など)を検知した場合にナースコール等に通知します。
- ②睡眠・覚醒の状態を測定できるため、睡眠状態を定量的に評価できます。
- ③体動センサーから得られた心拍数、呼吸数、睡眠/覚醒などから、患者の状態変化の把握につながります。*

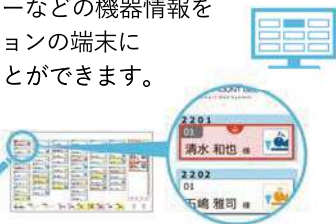
▶負担をかけることなく患者の状態を把握できます。

機能 2

患者/ベッドの状態を一覧表示

患者の状態や、ベッドの背あげ角度や高さ、そして離床センサーなどの機器情報をスタッフステーションの端末に一覧で表示することができます。

睡眠や覚醒状態をわかりやすく表示するなど、夜間の見守りをサポートします。



スタッフステーションの端末で患者/ベッドの状態を確認

- ①病棟の全ての患者の睡眠・覚醒・離床の状況、病棟の全てのベッドの背あげの角度、ベッド高さが最低かを把握できます。
- ②各病床の端末が正常に稼働しているかを確認ができます。

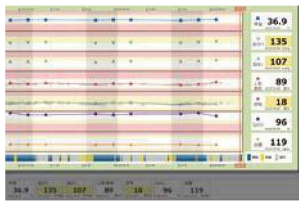
▶訪室しなくても状態を把握できるため、夜間の見守り業務などの負担軽減につながります。

機能 3

ピクトグラム・患者情報の表示

患者情報やピクトグラムをベッドサイド端末に表示することで、患者の状態を関係者の間で共有できます。

スタッフ専用のIDカードをかざすと、温度板や睡眠日誌、呼吸数、心拍数も確認可能。*



各病床のベッドサイド端末ですぐに確認や変更

- ①患者に関する情報を表示します。(医療看護支援ピクトグラム、注意喚起表示など)
- ②電子カルテに登録された各種バイタルサインや、体動センサーで取得した睡眠状況、心拍数・呼吸数などを表示します。*
- ③離床センサーの通知設定や、心拍数・呼吸数の通知設定を確認、変更することができます。*

▶電子カルテ端末がない場合でも、患者に関する情報の確認ができます。また表示している内容を患者や家族と共有できます。

機能 4

バイタルサイン入力の省力化

通信機能付バイタルサイン測定機器を利用することで、入力業務の負担を軽減します。入力の自動化により、転記ミスの防止などにもつながります。

ベッドサイド端末から、バイタルサインを電子カルテに簡単入力。



各病床のベッドサイド端末から電子カルテにバイタルサインを登録

- ①通信機能付きのバイタルサイン測定機器(体温計、血圧計など)をベッドサイド端末の受信部にかざすだけで、バイタルサインの測定値や測定時刻がベッドサイド端末に入力され、登録ボタンを押すと電子カルテにバイタルサインを登録できます。

▶キーボード入力での誤入力を無くすだけでなく、測定後すぐに登録できることで、医療従事者間でほぼリアルタイムにバイタルサインを共有できます。

*体動センサーは、体動を検出するためのセンサーであり、生命に関わる環境下での監視には使用できません。寝返りなどの大きな体動が多いなど、状況によっては呼吸・心拍を検出できない場合があり、生命に関わる監視装置としての性能・機能は有していません。